

運行体系や経路、便数、時刻などの見直しに向けて、地域公共交通網形成計画の策定を進めています。

もつと身近な 私たちのバスへ

町では、鞍手中学校の開校に合わせ、平成26年10月に、すまいるバスともやいたクシー（予約型乗合タクシー）の運行経路や便数、時刻などを見直しました。これは、中学校生徒の通学と高齢者など一般の利用者の移動手段を両立させるための変更でしたが、4年が経過し、さまざまな課題が浮き彫りとなっています。町では、便利で使いやすい、もつと身近な私たちのバスを目指して。町では、新たな見直しに取り組んでいます。

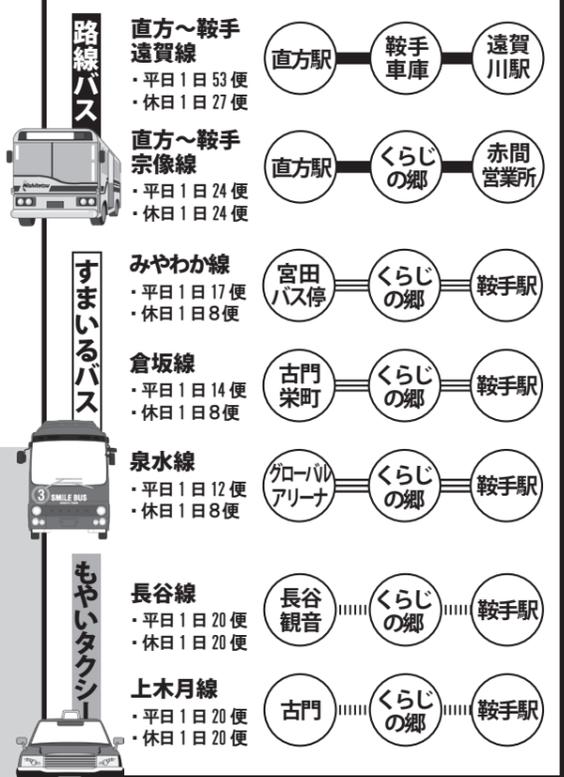


鞍手町地域公共交通見直しの歩み

- 平成23年10月1日～**
 - すまいるバスに「まちなか線」を新設。鞍手駅からくらじの郷までの主要施設がある地域を平日1日15往復運行
 - 西鉄バス西川線（現直方～鞍手～宗像線）をくらじの郷経由に変更
 - 古門や長谷、泉水などの公共交通空白地域に、もやいたクシーを導入
- 平成24年10月1日～**
 - すまいるバス「まちなか線」を往復運行から周回運行に変更（倉坂・古門・猪倉まわりと泉水・永谷・神崎まわりの2系統）
 - すまいるバスの運賃を200円均一に
- 平成25年10月1日～**
 - すまいるバス「まちなか線」を「倉坂線」と「泉水線」に再編。周回運行から往復運行に変更
 - もやいたクシー「上木月線」を新設。1日往復20便運行に。料金をすまいるバスと同様に200円均一に
- 平成27年3月22日～**
 - 鞍手中学校の開校に伴う中学生の通学のために、すまいるバス「倉坂線」、「泉水線」に新型車両を導入。運行経路、時刻を大幅に見直し
 - すまいるバス「みやわか線」を通学時間帯のみ2台体制に増便

鞍手町のバス路線図

[平成30年4月9日現在]



「課題改善のために」平成31年10月見直しに向けて網計画を策定

このような課題を改善するため、町では「地域公共交通網形成計画（網計画）」を策定し、平成31年10月を目標に、地域公共交通体系を見直します。

現在、平成31年3月までに網計画を策定するため、地域の代表者へのアンケートや利用実態調査、交通事業者への聞き取り調査などを行っています。

バスなどの地域公共交通は、車を運転できない人や高齢者、障がい者、子ども

「現在の課題」一般利用者や中学生 相反する利用実態

しかし、最後の見直しから4年が経過し、今、さまざまな課題が見えています。鞍手中学校のすべてのバス通学対象者は約1600人。通学時間帯は、この利用者全員が乗車でき、始業に間に合うように便数や時刻を調整しています。また、中学校前にバス停を設置し、路線バスを含め、すべてのバスが通過する経路に変更するなど、中学生に寄り添った運行体系となっています。

一方で、同じバスを利用する高齢者などからは、「日中や夕方の便数が少ない」「もつと便数を増やしてほしい」「必要な時間にバスがない」など現在の運行方法では満足できないという声が多く聞かれています。

また、中学生の利用者数も年々減少しています。平成29年度（平日）のすまいるバスの利用状況を見てみると、対象者110人のうち、約25パーセントしか利用していないという結果に。この理由として、「部活動やイベントなどで居残りすると利用できない」「保護者が送迎している」「自転車がある」など交通弱者と呼ばれる人にとって、利用しやすいものでなければなりません。

その一方で、多様な利用者にとり寄り添った交通体系の構築、町の公共交通にかかると、財政負担の軽減、交通事業者が抱える人材不足の問題など、直面するさまざまな課題を同時に改善していく必要があります。

町では、持続可能な公共交通体系を構築するため、住民代表や学識経験者、交通事業者などで構成する地域公共交通会議で、網計画の策定に向け検討を重ねています。

網計画は、平成31年2月上旬までに案としてまとめ、この案に対し町民の皆さんからの意見を募集（パブリックコメント）する予定です。

もやいたクシーの利用者数と運行補助額

路線名	利用者数 (年)	町の赤字補助額 (年)	利用者補助額 (1利用者当たり)	町民1人当たり負担額 (年)
長谷線	219人	15万円	685円	9円
上木月線	1,994人	127万円	637円	78円
計	2,213人	142万円	642円	87円

もやいたクシーは、すまいるバスなどが運行していない交通空白区域を運行しているため、利用者は少数に限定されます。また、もやいたクシーは予約制であるため、利用者がいなければ運行しません。そのため1利用者当たりの補助額は高くなりますが町民1人当たりの年間負担額は87円と、すまいるバスに比べ少額となっています。

「これまでの経緯」鞍手中学校開校を機にすまいるバスを3路線に

現在、町の公共交通には、西鉄バス筑豊株式会社が行っている路線バスが2路線、町が補助して運行しているすまいるバスが3路線、もやいたクシーが2路線あります（5ページ下図参考）。

この交通体系に至るまで町では、平成23年3月に策定した「地域公共交通総合連携計画」をはじめ、大きく4度の見直しと試験運行を繰り返してきました。

運賃の200円均一化や乗継乗車券の発行、すまいるバスまちなか線の導入や町内循環化、もやいたクシー泉水線、古門線の開設・休止など、その時々での利用実態や利用者の声に応じた見直しを進めて、現在の運行体系となっています。

特に平成26年10月には、翌年4月の鞍手中学校開校に向け、大きな見直しを実施。中学生のバス通学に対応するため、すまいるバスみやわか線、倉坂線、泉水線の運行経路や時刻を大幅に変更したほか、ラッピングされた中型バス2台を新たに購入しました。

また、長谷地区と上木月地区などには、もやいたクシー制度を導入。1日往復20便に運行回数を拡充する

「現在の課題」一般利用者や中学生 相反する利用実態

しかし、最後の見直しから4年が経過し、今、さまざまな課題が見えています。鞍手中学校のすべてのバス通学対象者は約1600人。通学時間帯は、この利用者全員が乗車でき、始業に間に合うように便数や時刻を調整しています。また、中学校前にバス停を設置し、路線バスを含め、すべてのバスが通過する経路に変更するなど、中学生に寄り添った運行体系となっています。

一方で、同じバスを利用する高齢者などからは、「日中や夕方の便数が少ない」「もつと便数を増やしてほしい」「必要な時間にバスがない」など現在の運行方法では満足できないという声が多く聞かれています。

また、中学生の利用者数も年々減少しています。平成29年度（平日）のすまいるバスの利用状況を見てみると、対象者110人のうち、約25パーセントしか利用していないという結果に。この理由として、「部活動やイベントなどで居残りすると利用できない」「保護者が送迎している」「自転車がある」など交通弱者と呼ばれる人にとって、利用しやすいものでなければなりません。

その一方で、多様な利用者にとり寄り添った交通体系の構築、町の公共交通にかかると、財政負担の軽減、交通事業者が抱える人材不足の問題など、直面するさまざまな課題を同時に改善していく必要があります。

町では、持続可能な公共交通体系を構築するため、住民代表や学識経験者、交通事業者などで構成する地域公共交通会議で、網計画の策定に向け検討を重ねています。

網計画は、平成31年2月上旬までに案としてまとめ、この案に対し町民の皆さんからの意見を募集（パブリックコメント）する予定です。

すまいるバスの利用者数と運行補助額

路線名	利用者数 (年)	利用者数 (1日当たり)	うち中学生	町の赤字補助額 (年)	利用者補助額 (1利用者当たり)	町民1人当たり負担額 (年)
みやわか線	42,314人	116人	26人	1,391万円	329円	857円
倉坂線	12,814人	35人	12人	966万円	754円	596円
泉水線	13,028人	36人	17人	999万円	767円	616円
計	68,156人	187人	55人	3,356万円	492円	2,069円

すまいるバスの1日当たりの平均利用者は187人。町民全体の約1.2%が利用している計算になります。また、利用者の運賃負担は大人1人200円ですが、そのほかに赤字分を町が1利用者当たり492円負担しています。これを町民全体

町民1人当たりの負担額（年）は、平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口16,219人で算出

すまいるバス・もやいたクシーの利用者数と運行負担額 [平成29年度]

路線名	利用者数 (年)	利用者数 (1利用者当たり)	町の赤字補助額 (年)	利用者補助額 (1利用者当たり)	町民1人当たり負担額 (年)
みやわか線	42,314人	116人	1,391万円	329円	857円
倉坂線	12,814人	35人	966万円	754円	596円
泉水線	13,028人	36人	999万円	767円	616円
計	68,156人	187人	3,356万円	492円	2,069円

で見ると、すまいるバス3路線の運行維持のために、年間1人当たり2,069円を負担していることとなります。

